

主体的に学ぶ 全員参加の“学び合い”

昭和南小学校では、児童の主体的な学びを促進し、学力の向上を図るため、全員参加の“学び合い”をベースとし、個を大切にした指導に取り組んできました。その取組を紹介します。



全員参加の“学び合い”

個を大切にした指導

全員参加の“学び合い”にするために

全校で、“学び合い”に取り組みました。

ほっとかない～自分を友達を～

気付きの交流

- 【気づきを見つける】
- ①分かっていること
 - ②今までの学習とのちがいが
 - ③分からないこと
 - ④解決の見通し(のほ-思った-が使える)
 - ⑤答えの予想

短時間に全員が課題を把握することが大切です。

課題に対する気付きを交流することで、課題の意味を確実に理解することができます。

それが解決の見通しにもつながり、自力解決のヒントを得ることができます。

ほっとかない

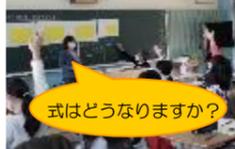


分からないことはそのままにせず、その都度、友達と確認する。

周りの友達がどのような様子か常に気にかける。

このように、自分や友達をほっとかないということを大切にしています。

聴き手をまきこんで発表



「～ですね。」
「～ということになりますか?」
式はどうなりますか?」

聴き手をまきこんで発表することで、全員が参加しなければならない状況をつくり出します。

学校全体の取組にするために

“学び合い”をベースとして、児童のつまずきの解消に向け、学校全体で取り組みました。

- “学び合い”の授業スタイルを、児童にも理解させるために、児童が上の学年の授業参観を行いました。

みんな大きな声で反応していました。すぐに手をあげていたところを見習いたいです。途中でしか分からなくても手をあげたいです。

【参観した児童の感想】



児童が授業参観

- 児童の主体的な学びの促進に係わって、本校の課題や改善策を出し合い学校全体で「あたたかな聴き方」に取り組むことにしました。教職員や児童と共通理解を図るために、聴き方の具体的な姿をステップ表にまとめ、共有しました。また、各学級の取組状況を交流することで、指導方法の見直しを図りました。

- 児童のつまずきを把握するためレディネステストを行い、「どこにつまずいているのか、何につまずいているのか」を分析しました。全教職員で模擬授業等を行い、授業でのつまずきの予想とつまずきに応じた手立てを検討しました。

学力フォローアップ校事業で、研究授業や模擬授業、教材づくりなどの取組を通して、職員が本校の目指す授業を一緒に作りあげていこうとする一体感が生まれました。集団での“学び合い”、個を大切にした指導をこれからも続けていきます。



校長

授業の中での教師の手立て

“学び合い”をベースとして、学習のつまずきを解消するための効果的な手立てを全体で検討し、学習内容が定着するよう取り組みました。

算数科 第2学年 「九九のきまり」

まとまりをしっかりと捉えさせるためには…

手立て

- ・まとまりを正しく囲むことができない。
- ・「●の△つ分」が正しく捉えられない。

つまずき

7こがあと3列あるから $7 \times 3 = 21$ かな。



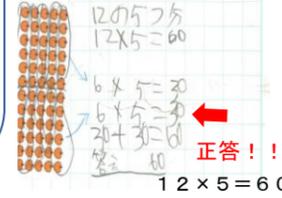
3列
7 × 3 = 21
誤答

- ・●の部分大きな丸で囲ませよう。
- ・図の方向をかえ、かけられる数とかける数が捉えやすいようにしましょう。
- ・図と式を対応して考えられるよう矢印をかかせよう。



- ・●を囲むことでまとまりが意識でき、「●の△つ分」を正しく捉えることができるようになった。
- ・「●の△つ分」の考え方を使って、九九にはないかけ算の問題も解くことができるようになった。

変容



算数科 第4学年 「面積」

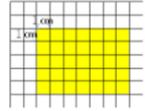
長方形や正方形の辺に着目させたいな…

手立て

- ・1cm²の何個分かを捉えることができない。
- ・長方形や正方形のまわりの長さに着目できない。

つまずき

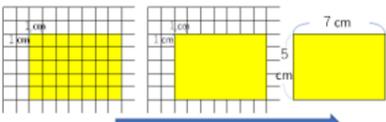
どこの長さが分かるといいのかな。



- ・かけ算の意味に帰着させて、面積の求め方を考えさせよう。
- ・「方眼入りの長方形」, 「方眼の上に重ねた長方形」を提示して、辺の長さに着目させよう。



スモールステップ



- ・「1cm²のいくつ分」の考え方をつかって面積を求めることができるようになった。
- ・辺の長さの提示だけで、長方形や正方形の面積を求めることができるようになった。

変容

授業での児童の様子をもとに、どのような変容が見られたか、手立ての効果や改善について協議し、検証していきました。

放課後にじいる教室



授業の学習内容がより定着するよう、放課後の個別指導に学校全体で取り組みました。個別指導を通じて、児童のつまずきがより明確になり、授業での手立てに生かすことができました。

けいさんカードや音どくをきいてもらえるからうれしいです。



児童

にじいる教室に来て、できることや分かることがいっぱいふえて、すごく楽しいです。



児童

子ども達は、放課後残されて勉強をしているという捉え方ではなく、喜んで教室に来ています。「にじいる教室」に来ることで、分かる喜びやできるようになった喜びを感じています。指導する側としては、やりがいがあります。



フォローアップ教員

その他の取組

スキルタイム

- ・月・火・金(13:50~14:05)に実施する、プリントを中心とした学力補充の時間です。
- ・学級担任+1名の2人体制で指導しています。(管理職・研究推進教員・フォローアップ教員・養護教諭・指導員)
- ・1か月の計画にもとづいて実施しています。



環境整備

- ・全学年の学習プリント(国語・算数)を整理し、職員室に置いています。
- ・学年の実態に応じて、他学年のプリントにも取り組んでいます。児童のつまずきの把握にも活用しています。
- ・スキルタイム(帯タイム)や日々の授業、家庭学習で使っています。放課後の個別指導でも活用しています。

